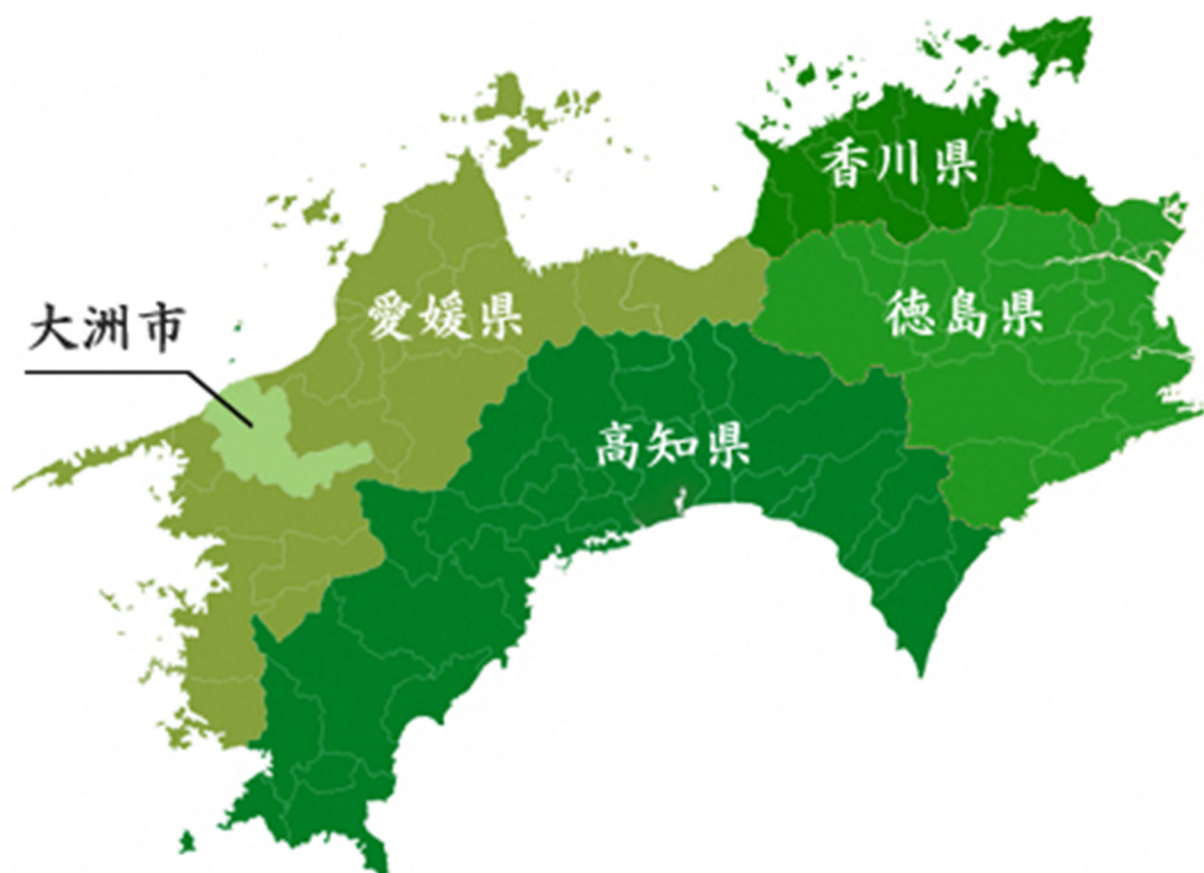


2-1 自然特性

2-1-1 本市の位置・地勢

本市は、愛媛県の南予地方に位置し、面積は 432.12km² で、標高 250m 以上の山地が市域の半分ほどを占め、中央部には大洲盆地が広がっています。一級河川の肱川が大洲盆地の中央を流れ、河辺川等の支流を含め流域に沿って田畑や集落、市街地が形成されています。北西部は瀬戸内海「伊予灘」に面しています。

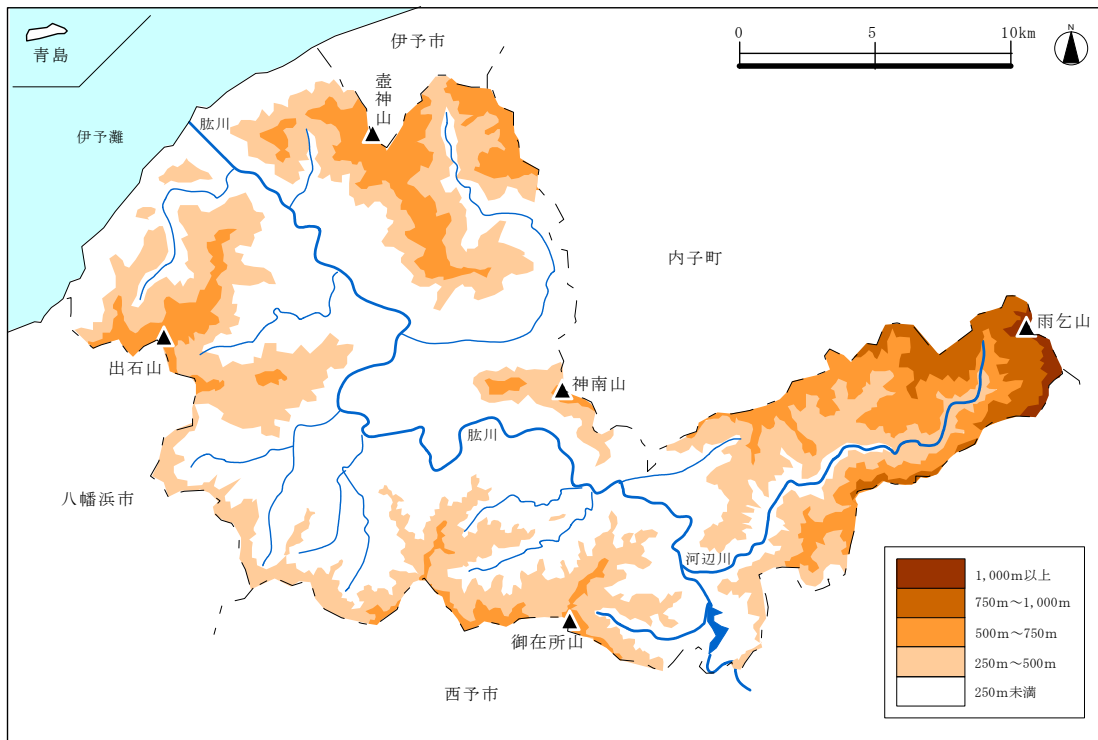
土地利用については、次頁の図 2-3 に示すとおり市域の大半が森林となっており、多くの山林を有していることが分かります。



出典：大洲市「大洲市ホームページ」

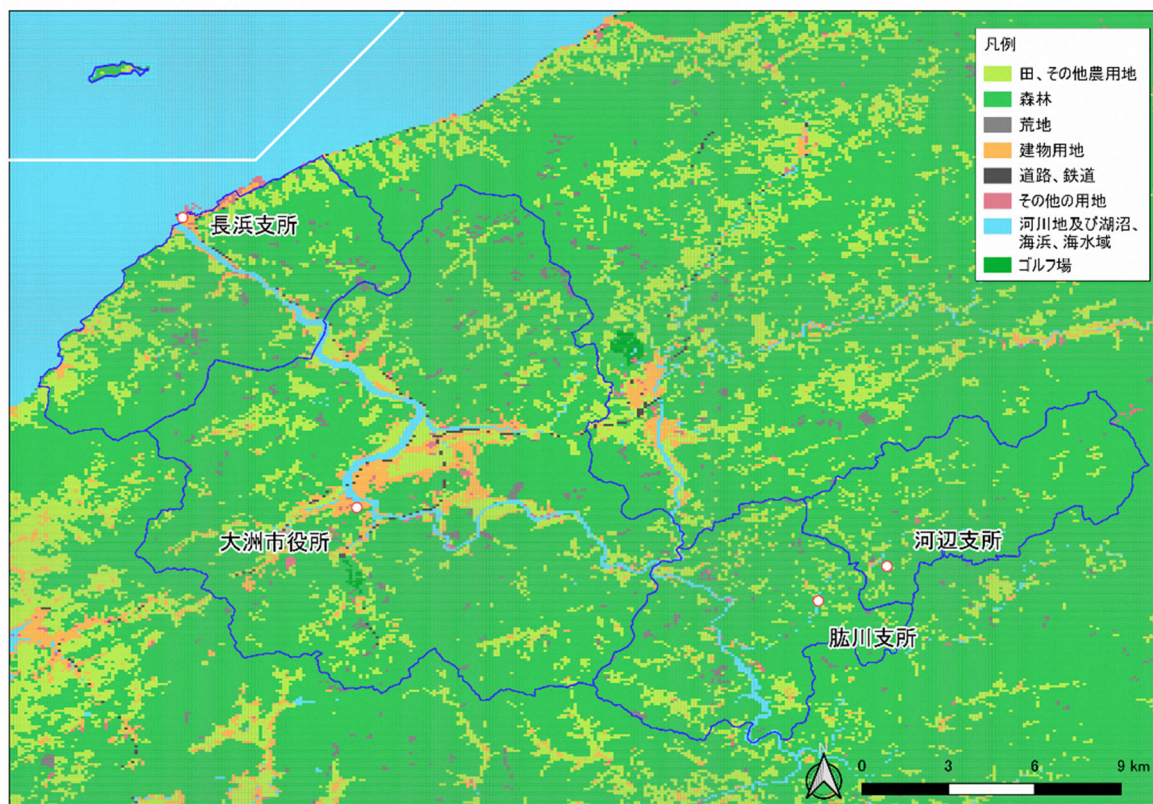
図 2-1 本市の位置





出典：大洲市「第2次大洲市総合計画」（2017年(平成29年)）

図 2-2 本市の地勢



出典：国土交通省「国土数値情報『土地利用細分メッシュ』」（2016年(平成28年)）

図 2-3 土地利用現況図

2-1-2 自然環境

本市の中央部を流れる肱川は、その源を西予市宇和町久保の鳥坂峠付近（標高 460m）に発し、宇和盆地を南下したのち東に向きを変え、狭隘な山間部を経て大洲盆地を貫流し伊予灘に注いでいます。流域面積は 1,210km²、幹線流路延長は 103km に及び、黒瀬川、舟戸川、河辺川、小田川、矢落川などの支流を含む愛媛県下で最大の一級河川です。

肱川の流域面積の約 90%が山地であり、平野は、上流の宇和・野村、中流の大洲盆地だけで、その他は山裾が川まで迫る状態が河口まで続いています。このため、動植物の生息地としての貴重な環境が残されており、観光資源にもなっています。日本 3 大鵜飼いのひとつに数えられる「大洲の鵜飼い」には、夏から秋にかけて観光客が訪れます。

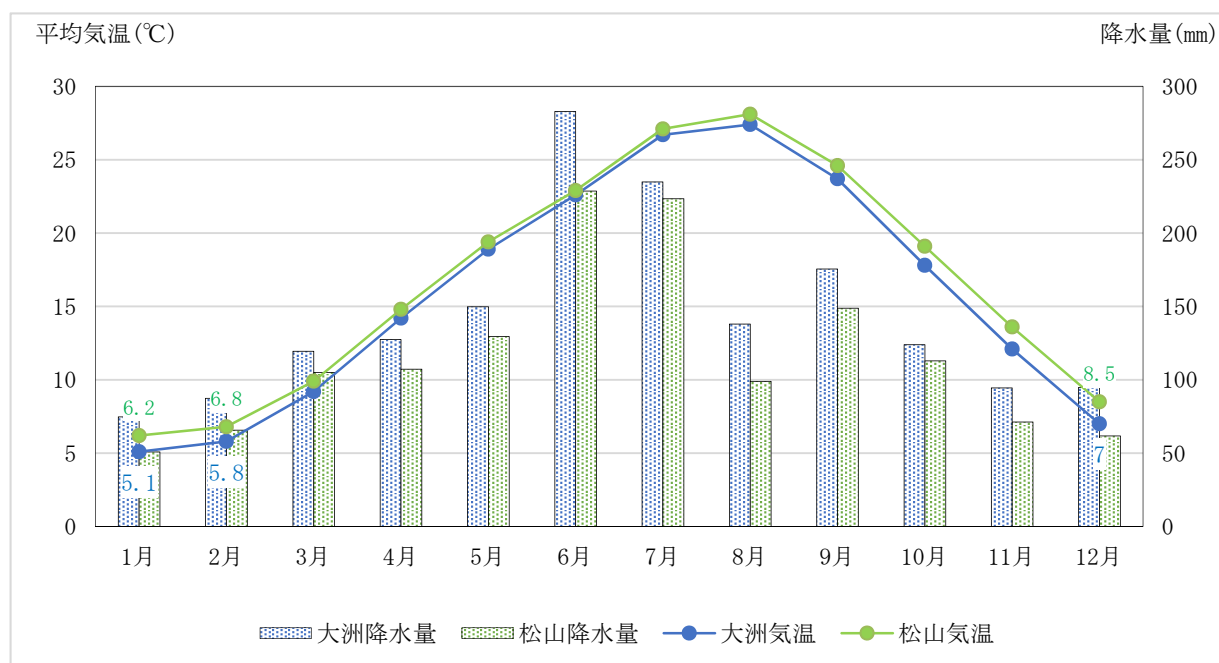
2-1-3 気温・降水量

以下、図 2-4 に気温及び降水量の月別の平均値(1991～2020 年（平成 3 年～令和 2 年）)、図 2-5 に気温及び降水量の年間平均値(1991～2020 年（平成 3 年～令和 2 年）)の調査結果を示します。

調査は気象庁の大洲気象観測所（大洲市阿蔵）と松山気象観測所（松山市北持田町）のデータを使用しました。

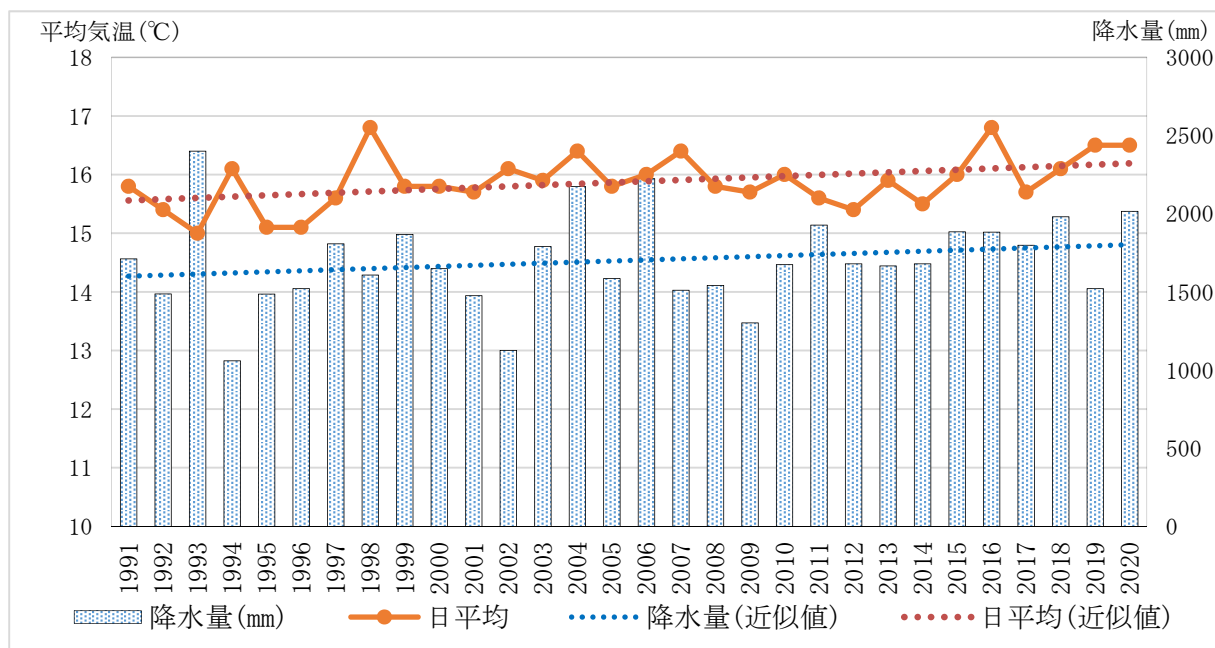
図 2-4 より、大洲は松山と比較し、降水量が多いことが分かります。また、大洲は盆地であるため、多地点と比較して冬季の気温が 1.0～1.5℃程度低くなっています。

図 2-5 を見ると、ここ 30 年間でも平均気温が上昇傾向にあり、降水量においてもばらつきがあるものの、増加傾向にあります。



出典：気象庁「気象庁ホームページ」

図 2-4 大洲・松山の気温と降水量の月別平均値（1991～2020 年（平成 3 年～令和 2 年））



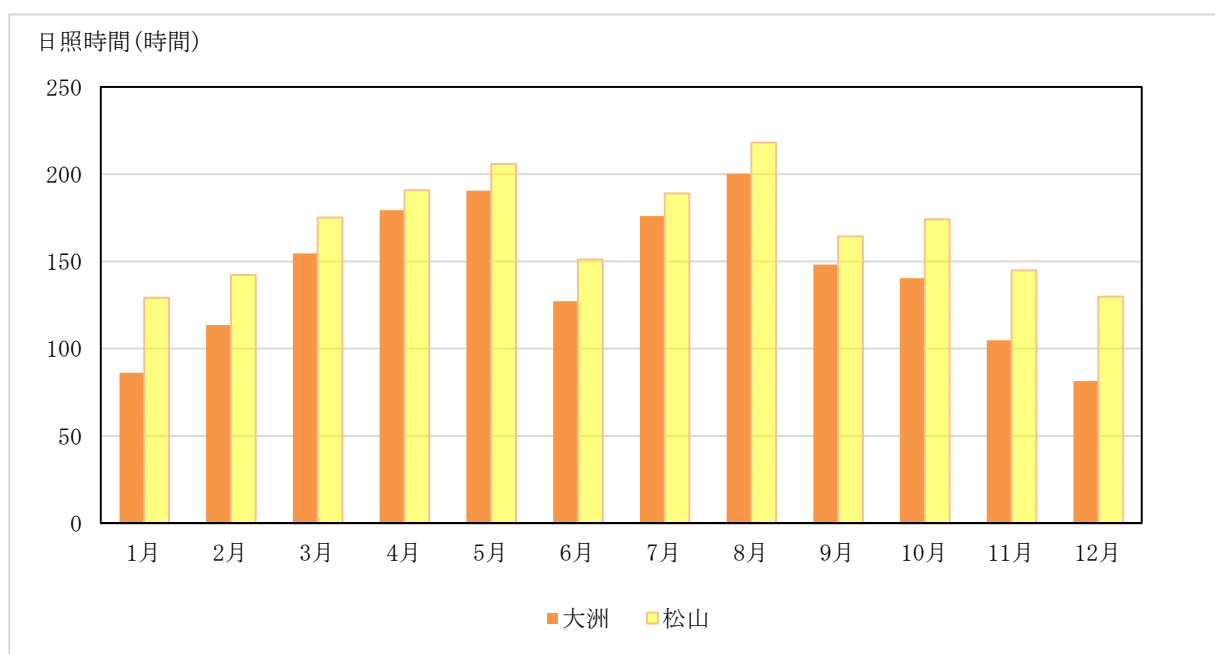
出典：気象庁「気象庁ホームページ」

図 2-5 大洲の平均気温と降水量の年別平均値(1991～2020 年（平成 3 年～令和 2 年）)

2-1-4 日照時間

以下の図 2-6 に、大洲・松山地点における月別平均日照時間の調査結果(1991～2020 年（平成 3 年～令和 2 年）)を示します。

結果より、大洲は松山と比較して日照時間が短いことが分かります。



出典：気象庁「気象庁ホームページ」

図 2-6 平均日照時間(1991～2020 年（平成 3 年～令和 2 年）平均)



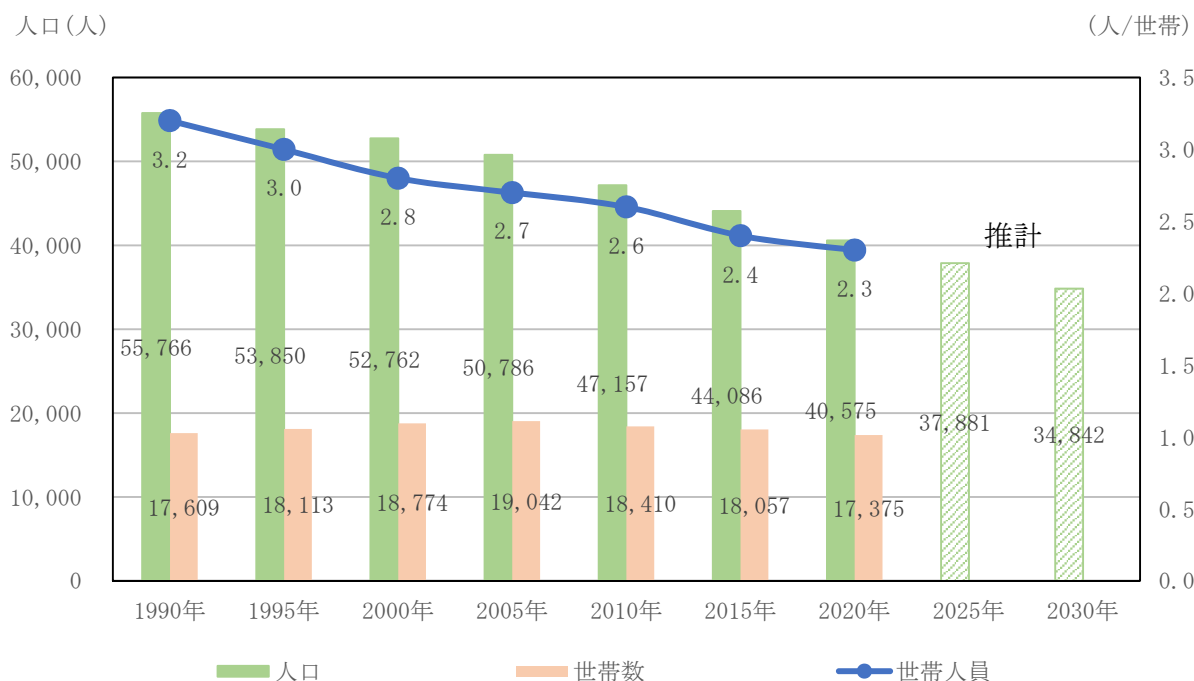
2-2 社会特性

2-2-1 人口等

以下に人口等に関する調査結果(1990～2030年(平成2年～令和12年))を示します。

本市の総人口は一貫して減少傾向にあり、2020年(令和2年)は40,566人となっており、1990年(平成2年)と比較してこの30年間で人口が15,200人(約27%)減少しています。人口問題研究所の推計結果によると、2030年(令和12年)までで人口は2020年(令和2年)と比較して約5,700人(約14%)減少と予測されています。

世帯数はおよそ18,000世帯前後と横ばいですが、人口の減少に伴い、世帯当たりの人員は減少傾向にあります。



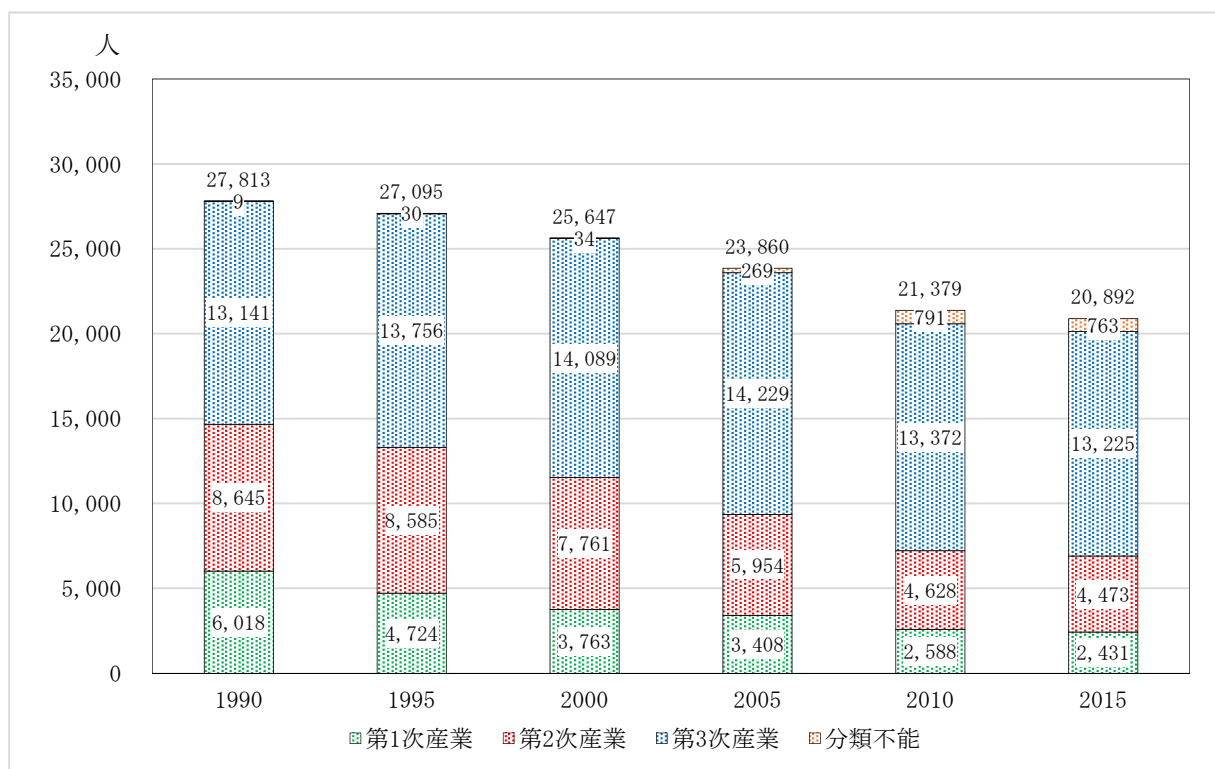
出典：総務省「国勢調査」(1990～2020年(平成2年～令和2年))、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2018年(平成30年))
図 2-7 本市の人口と世帯数(1990～2030年(平成2年～令和12年))

2-2-2 産業別就業人口

以下、図 2-8 と図 2-9 に本市の産業別就業人口及び人口比率についての調査結果(1990～2015年(平成2年～平成27年))^{※1}を示します。

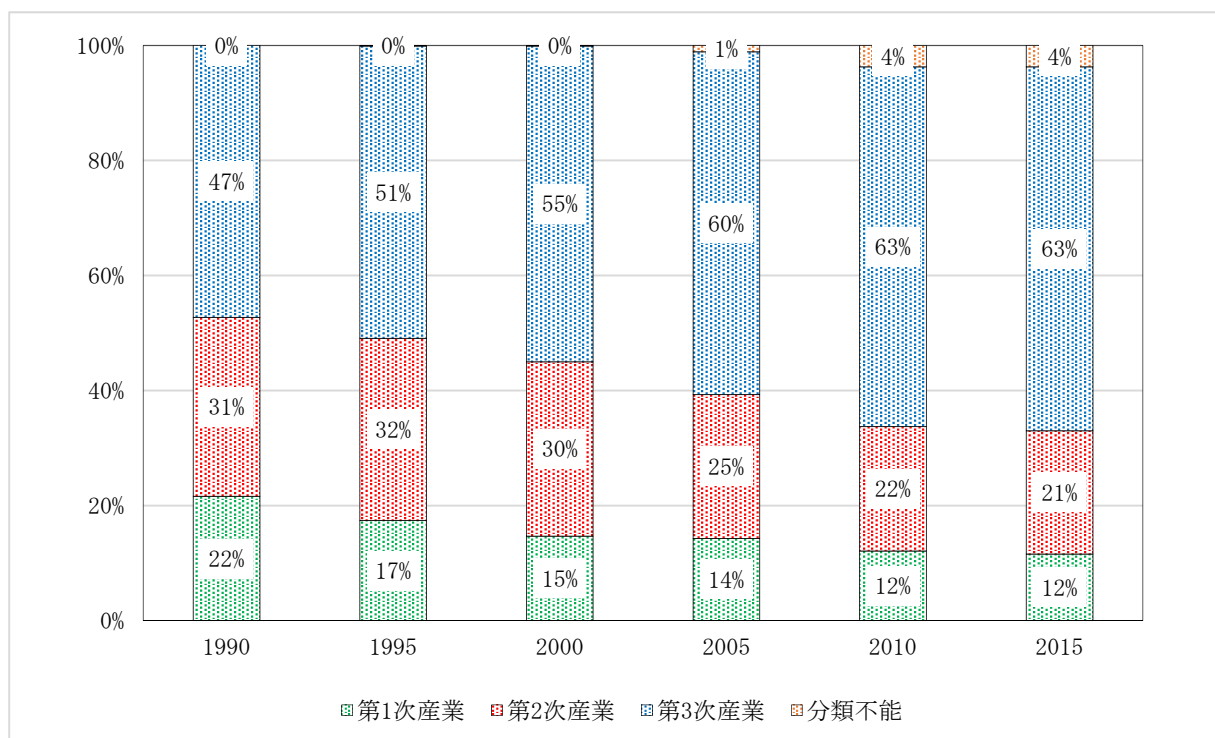
この30年間で、本市の就業人口(15歳以上就業者数)は、約7,000人減少しています。産業別にみると、第1次産業、第2次産業ともに減少傾向にありますが、第3次産業は緩やかに増加を続け、全体の約6割を占めています。就業人口比率をみると、第1次産業と第2次産業の減少傾向、第3次産業の増加傾向が顕著に表れています。

※1 2020年(令和2年)の調査結果は2022年(令和4年)3月現在、未公表。



出典：総務省「国勢調査」（1990～2015年（平成2年～平成27年））

図 2-8 産業別就業人口の推移(1990～2015年（平成2年～平成27年））



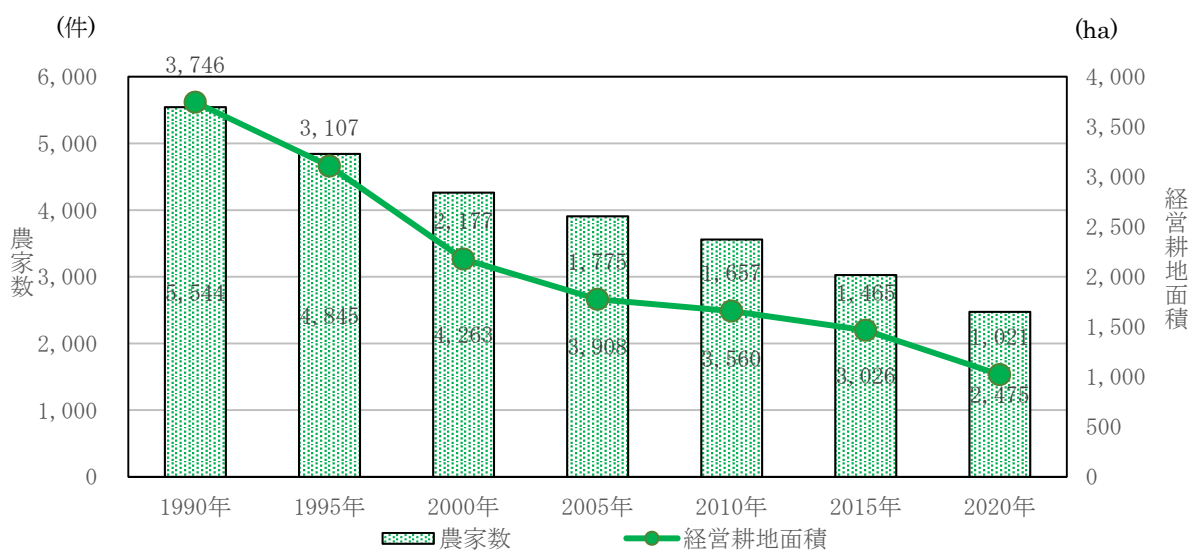
出典：総務省「国勢調査」（1990～2015年（平成2年～平成27年））

図 2-9 産業別就業人口比率の推移(1990～2015年（平成2年～平成27年））



2-2-3 農業

以下、図 2-10 に本市の農家数、経営耕地面積の調査結果(1990～2020 年)を示します。
農家数は1990年(平成2年)から2020年(令和2年)の30年間で激減しています。同様に
経営耕地面積も、30年間でおよそ4分の1程度まで大きく減少しています。

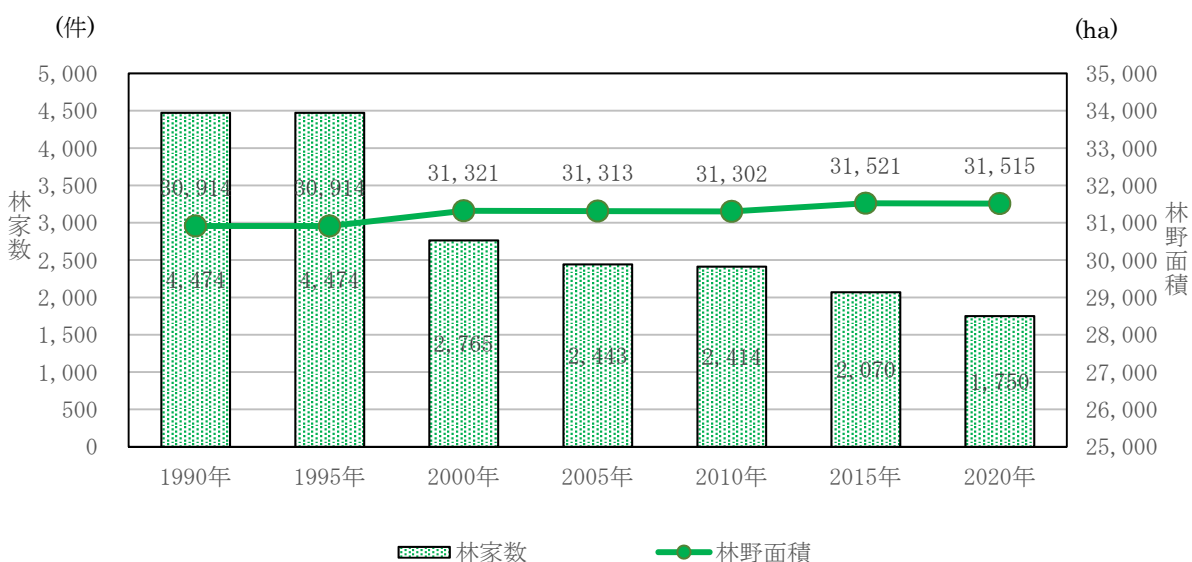


出典：農林水産省「農林業センサス」(2020年(令和2年))

図 2-10 農家、経営耕地面積の推移(1990～2020年(平成2年～令和2年))

2-2-4 林業

以下、図 2-11 に本市の林家数、林野面積の調査結果(1990～2020 年(平成2年～令和2年))を示します。本市において、林野面積はほぼ横ばいとなっていますが、林家数は著しく減少し続けています。



出典：農林水産省「農林業センサス」(2020年(令和2年))

図 2-11 林業経営体数、林野面積の推移(1990～2020年(平成2年～令和2年))

